



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月10日
上場取引所 東

上場会社名 イノテック株式会社
コード番号 9880 URL <https://www.innotech.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 大塚 信行
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 奥津 明洋 TEL 045-474-9000
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	29,922	△1.3	1,165	△36.6	1,280	△41.3	995	0.1
2024年3月期第3四半期	30,325	7.8	1,839	28.6	2,182	31.2	994	0.4

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 1,304百万円 (△25.1%) 2024年3月期第3四半期 1,741百万円 (△25.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	74.03	73.70
2024年3月期第3四半期	74.59	73.72

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	46,069	25,532	54.0
2024年3月期	47,833	25,322	51.6

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 24,871百万円 2024年3月期 24,704百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	35.00	—	35.00	70.00
2025年3月期	—	35.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,500	0.3	1,800	△27.3	1,800	△37.5	1,350	△8.6	101.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	13,700,000株	2024年3月期	13,700,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	343,414株	2024年3月期	241,614株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	13,450,003株	2024年3月期3Q	13,335,801株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付信託(J-ESOP)」に係る信託E口が保有する当社株式(2025年3月期3Q 42,000株、2024年3月期 42,000株)が含まれております。また、信託E口が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(2025年3月期3Q 42,000株、2024年3月期3Q 42,000株)。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(収益認識関係の注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の持ち直しや好調な企業業績などを背景とした設備投資の拡大が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方、先行きについては、物価上昇や急激な為替変動の影響が懸念されるほか、米国の政策動向や地政学的リスクの高まり、中国経済の停滞など、依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループにおける当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、システム・サービス事業や半導体設計関連事業が概ね堅調に推移したものの、テストソリューション事業が低迷したことから、売上高29,922百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益1,165百万円（同36.6%減）、経常利益1,280百万円（同41.3%減）親会社株主に帰属する四半期純利益995百万円（同0.1%増）となりました。

報告セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの利益又は損失の測定方法を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後の利益又は損失の測定方法により組み替えた数値で比較分析しております。

〔テストソリューション事業〕

テストソリューション事業は、半導体メモリー市場等の顧客を中心に当社グループのエンジニアリング力を活かし、高付加価値製品の提供に注力するとともに、顧客ニーズに対応した製品の開発やメモリー以外の周辺ソリューションの拡大に積極的に取り組んでまいりました。自社製テストシステムは、イメージセンサー向けデコーダーボードの販売が堅調に推移したものの、メモリー向けテスターの需要回復は遅れており、引き続き厳しい業況となりました。台湾のSTAr Technologies, Inc. は、プローブカード販売が堅調に推移したものの、信頼性評価装置の出荷遅れなどにより減収となりました。

その結果、当事業の売上高は9,606百万円（前年同期比15.3%減）、セグメント損失は654百万円（前年同期はセグメント利益437百万円）となりました。

〔半導体設計関連事業〕

半導体設計関連事業は、新規顧客の開拓や既存顧客との関係強化を図るなど積極的な営業活動を行い、売上拡大及び収益の安定化に努めてまいりました。主力商品である半導体設計用（EDA）ソフトウェアについては、既存顧客との長期契約の更新が概ね順調だったことなどから増収となりました。三栄ハイテックス株式会社のLSI設計受託ビジネスは、ベトナム子会社は概ね堅調に推移したものの、国内事業の減速や中国事業が低調だったことなどにより減収減益となりました。株式会社モーデックのシミュレーションモデル製品販売や設計支援サービスは、自動車や半導体向けを中心に、ほぼ前年同期並みの実績となりました。

その結果、当事業の売上高は9,761百万円（前年同期比2.6%増）、セグメント利益は355百万円（同7.3%減）となりました。

〔システム・サービス事業〕

システム・サービス事業は、当社グループのエンジニアリング力を活かし、特徴ある製品の開発やサービスの提供に注力するとともに、展示会やWEBを活用し新規顧客の獲得を図るなど積極的な営業活動を行ってまいりました。自社製CPUボードやBOX型コンピューターなどの組込み製品は、社会インフラ向けなどを中心とした需要が引き続き高いことに加え、防衛向けも伸長し増収となりました。アイティアアクセス株式会社は、ライセンス販売や受託開発が堅調に推移し、クラウド決済サービス収入も伸長したことにより増収増益となりました。ガイオ・テクノロジー株式会社の車載向け組込みソフト検証ツール販売及びエンジニアリングサービスは、検証ツール販売が堅調に推移したことに加え、自動車関連の需要増によりエンジニアリングサービスが大幅に伸長し増収増益となりました。株式会社レグラスは、受託開発が概ね順調に進捗し、建機やフォークリフト向けAIカメラシステムの量産販売も伸長したものの、一部製品の販売終了により減収となりました。

その結果、当事業の売上高は10,554百万円（前年同期比11.4%増）、セグメント利益は1,480百万円（同28.7%増）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は46,069百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,764百万円減少いたしました。これは主に、投資有価証券が増加したものの、現金及び預金や受取手形、売掛金及び契約資産、原材料が減少したことなどによるものであります。

一方、負債は20,536百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,974百万円減少いたしました。これは主に、短期借入金や長期借入金が減少したことなどによるものであります。

純資産は25,532百万円となり、前連結会計年度末に比べ210百万円増加いたしました。これは主に、自己株式の取得により減少したものの、為替換算調整勘定や繰延ヘッジ損益が増加したことなどによるものであります。この結果、自己資本比率は54.0%となり、前連結会計年度末に比べ2.4ポイント増加いたしました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年11月8日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,876,950	7,230,999
受取手形、売掛金及び契約資産	10,170,499	9,329,798
商品及び製品	5,485,515	5,933,541
仕掛品	1,503,906	1,766,188
原材料	2,192,112	1,952,111
その他	2,077,892	2,423,086
貸倒引当金	△1,592	—
流動資産合計	30,305,285	28,635,727
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,823,759	8,834,905
減価償却累計額	△5,557,041	△5,674,884
建物及び構築物 (純額)	3,266,718	3,160,020
土地	5,872,784	5,872,784
その他	4,959,695	3,609,759
減価償却累計額	△2,469,059	△2,233,873
その他 (純額)	2,490,636	1,375,886
有形固定資産合計	11,630,139	10,408,691
無形固定資産		
のれん	817,981	641,262
その他	1,248,338	1,203,928
無形固定資産合計	2,066,320	1,845,191
投資その他の資産		
投資有価証券	1,479,596	2,819,338
その他	2,352,359	2,360,256
投資その他の資産合計	3,831,955	5,179,594
固定資産合計	17,528,415	17,433,477
資産合計	47,833,701	46,069,204

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,778,142	2,886,150
短期借入金	9,479,991	7,874,245
1年内返済予定の長期借入金	660,000	450,000
未払法人税等	489,044	358,991
前受金	4,142,390	4,627,703
賞与引当金	449,826	732,856
役員賞与引当金	4,000	8,750
その他	2,257,576	1,743,377
流動負債合計	20,260,971	18,682,075
固定負債		
長期借入金	1,280,000	950,000
役員退職慰労引当金	168,097	91,916
株式給付引当金	35,992	46,564
退職給付に係る負債	358,727	384,868
その他	407,601	380,987
固定負債合計	2,250,418	1,854,337
負債合計	22,511,390	20,536,412
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,517,159	10,517,159
資本剰余金	4,044,529	4,069,017
利益剰余金	9,242,163	9,292,816
自己株式	△275,721	△414,677
株主資本合計	23,528,132	23,464,316
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	258,584	298,359
繰延ヘッジ損益	△85,861	14,573
為替換算調整勘定	864,545	967,844
退職給付に係る調整累計額	138,919	126,494
その他の包括利益累計額合計	1,176,186	1,407,271
新株予約権	21,730	21,730
非支配株主持分	596,260	639,473
純資産合計	25,322,310	25,532,792
負債純資産合計	47,833,701	46,069,204

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	30,325,438	29,922,833
売上原価	20,555,327	20,929,062
売上総利益	9,770,110	8,993,771
販売費及び一般管理費	7,930,251	7,828,096
営業利益	1,839,859	1,165,674
営業外収益		
不動産賃貸料	357,317	372,401
保険解約返戻金	17,568	269,487
その他	335,610	70,698
営業外収益合計	710,497	712,586
営業外費用		
不動産賃貸費用	284,181	290,805
その他	83,522	307,086
営業外費用合計	367,704	597,892
経常利益	2,182,652	1,280,369
特別利益		
事業譲渡益	—	318,350
その他	3,649	1,065
特別利益合計	3,649	319,415
特別損失		
投資有価証券評価損	561,160	—
その他	2,039	—
特別損失合計	563,199	—
税金等調整前四半期純利益	1,623,102	1,599,785
法人税等	589,548	532,998
四半期純利益	1,033,554	1,066,787
非支配株主に帰属する四半期純利益	38,818	71,062
親会社株主に帰属する四半期純利益	994,735	995,724

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	1,033,554	1,066,787
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	53,258	39,775
繰延ヘッジ損益	29,219	100,435
為替換算調整勘定	621,109	110,230
退職給付に係る調整額	4,706	△12,425
その他の包括利益合計	708,293	238,016
四半期包括利益	1,741,848	1,304,803
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,688,516	1,226,810
非支配株主に係る四半期包括利益	53,331	77,993

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。

なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

なお、これによる前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表に与える影響はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

(持分法適用の範囲の重要な変更)

第2四半期連結会計期間より、芯卓科技(浙江)有限公司に新たに出資したため、持分法適用の範囲に含めております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	テストソリューション事業	半導体 設計関連事業	システム・ サービス事業	計		
売上高						
テスター	2,421,213	—	—	2,421,213	—	2,421,213
STAr Technologies	8,915,916	—	—	8,915,916	—	8,915,916
EDA他	—	6,358,425	—	6,358,425	—	6,358,425
三栄ハイテックス	—	3,005,559	—	3,005,559	—	3,005,559
モーデック	—	148,315	—	148,315	—	148,315
組込みシステム他	—	—	2,168,346	2,168,346	—	2,168,346
アイティアアクセス	—	—	3,924,716	3,924,716	—	3,924,716
ガイオ・テクノロジー	—	—	3,024,198	3,024,198	—	3,024,198
レグラス	—	—	358,746	358,746	—	358,746
顧客との契約から生じる収益	11,337,129	9,512,300	9,476,008	30,325,438	—	30,325,438
外部顧客への売上高	11,337,129	9,512,300	9,476,008	30,325,438	—	30,325,438
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,636	32,104	33,740	△33,740	—
計	11,337,129	9,513,936	9,508,113	30,359,179	△33,740	30,325,438
セグメント利益	437,579	383,135	1,149,607	1,970,321	△130,462	1,839,859

(注) 1. セグメント利益の調整額△130,462千円には、セグメント間取引消去37千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△131,421千円及び棚卸資産の調整額921千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	テストソリュー ション事業	半導体 設計関連事業	システム・ サービス事業	計		
売上高						
テスター	1,260,874	—	—	1,260,874	—	1,260,874
STAr Technologies	8,345,858	—	—	8,345,858	—	8,345,858
EDA他	—	6,801,878	—	6,801,878	—	6,801,878
三栄ハイテックス	—	2,793,892	—	2,793,892	—	2,793,892
モーデック	—	165,383	—	165,383	—	165,383
組込みシステム他	—	—	2,422,694	2,422,694	—	2,422,694
アイティアアクセス	—	—	4,101,865	4,101,865	—	4,101,865
ガイオ・テクノロジー	—	—	3,694,056	3,694,056	—	3,694,056
レグラス	—	—	336,329	336,329	—	336,329
顧客との契約から生 じる収益	9,606,733	9,761,154	10,554,945	29,922,833	—	29,922,833
外部顧客への売上高	9,606,733	9,761,154	10,554,945	29,922,833	—	29,922,833
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	93	18,729	18,822	△18,822	—
計	9,606,733	9,761,247	10,573,674	29,941,655	△18,822	29,922,833
セグメント利益又は損 失 (△)	△654,689	355,069	1,480,048	1,180,428	△14,753	1,165,674

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△14,753千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△13,788千円及び棚卸資産の調整額△964千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、全社費用の配賦方法を見直し、報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更を行っております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の測定方法に基づき作成したものを開示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年11月8日開催の取締役会決議に基づき、自己株式を123,900株取得しております。

また、第2四半期連結会計期間において、当社役員に対する譲渡制限付株式報酬としての自己株式を8,500株、当第3四半期連結会計期間において、当社執行役員に対する譲渡制限付株式報酬としての自己株式を17,000株、当社従業員に対する譲渡制限付株式報酬としての自己株式を3,800株処分いたしました。このほか、連結子会社の株式を追加取得したことを含め、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が24,488千円、自己株式が138,956千円それぞれ増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が4,069,017千円、自己株式が414,677千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	953,235千円	973,095千円
のれんの償却額	174,441	167,054

(収益認識関係の注記)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、（セグメント情報等の注記）に記載のとおりであります。